



射水市立東明小学校 学校だより

東明っ子

第15号

令和3年 11月 14日



走り切った校内持久走記録会！！

10月26日（水）に校内持久走記録会を行いました。前日の強風がぴたりと止んで、当日は秋晴れの好天に恵まれました。長い距離を走るには、とてもよい条件でした。

開会式では「一人一人力は違います。だから、自分のペースで最後まで走り切ることが大切です。走っているうちに辛くて、止めたい、歩きたいと思ったときこそが頑張りどころです」と話しました。記録会は、低学年から始まりました。低学年の走る距離は800mです。次は、中学年の部、走る距離は1000mです。そして、最後は高学年の部、走る距離は1200mでした。

さすがに記録会となるとスタートから素晴らしいスピードで走り出しました。どの子も真剣な顔です。やがて、だんだん疲れてきて、途中で辛くなります。それでも、必死に前に進もうとする姿に感動しました。ゴールして倒れこむ子や、走り終わった後、悔しくて涙ぐむ子等、全力を出し尽くした子供たちの様子に胸が熱くなりました。子供たちは、苦しいことや辛いことから逃げ出さず、最後までやり抜く尊さを実感したのではないかと思います。

体育の時間やランランタイム、そして家でも一生懸命練習に取り組んだことが成果となって表れ、子供たち一人一人最後まで走りきることができました。ゴール前の一番苦しいときに、保護者の皆様の応援が後押しとなって、全力で駆け抜ける子供たちの姿はとても素晴らしかったです。子供たちに大きな拍手と声援を送っていただき、本当にありがとうございました。



1年生



2年生



3年生



4年生



5年生



6年生

サウンドテーブルテニス体験学習



福祉学習を進めている5年生が、10月18日（火）に障害者への理解について学ぶ活動を行いました。講師に富山県視覚障害者協会長 塘添 誠二 様、ボランティアサポーター 森 丞 様をお招きし、始めに塘添先生から目が不自由なことで様々な苦労をした体験を話していただき、子供たちは大きくうなずいて聞いていました。そして、「障害のある方を見かけたら、声をかけてほしい」と言われました。困っている人がいたら手を差し伸べることは人として大切なことだと思います。

次に体育館へ移動して、「サウンドテーブルテニス」に挑戦しました。これは視覚に障害がある方が行う卓球です。塘添先生から、卓球の球はネットの下をくぐらせ、転がして打ち合うと説明を受けました。球には鉛が4個入っており、転がると音が出るように工夫がしてあり、音を聞いて位置を確認できるようになっています。塘添先生とサポーターの森さんに実演していただきました。塘添先生が打ち返す球の速さと正確さに子供たちはとても驚いていました。



アイマスクの代わりにタオルで目を隠して、子供たちも体験しました。いざやってみると難なく打ち返される先生とは大違いで、まったくラケットに球が当たりません。空振りの連続でしたが、未知の体験を楽しむとともに、子供たちは目が見えず、音だけを頼りに生きていくことの難しさを肌で感じたようです。

塘添先生の貴重な話や「サウンドテーブルテニス」の体験活動を通して、困っている人に声をかけることができる人になってほしいものです。

（この様子は、10月19日付の北日本新聞に掲載されました）



【6年 「自分を応援できる自分づくり」教室 10月21日（金）】

卒業に日まで、あと5ヶ月となった6年生。中学進学に対する期待と不安や今の自分の心の在り方、友達との関係等についていろいろ考えをめぐらす時期ではないかと思います。



富山福祉短期大学 宮腰 浩子 先生を講師として迎え、市民共同事業「自分を応援できる自分づくり教室」を6年生対象に実施しました。

「自分で自分に話しかけますか」と投げかけられ、「自分によく頑張った」と話すという子がいました。宮腰先生から、「人は1日に何度も自分に話しかけています。自分が自分に話しかけ、自分を応援していくことが大切なのです」と教えていただきました。自分の行動を自省し、前に進んでいく6年生の姿を期待したいです。

（校長 阿 尾 昌 樹）

